

地域の人が気兼ねなく集まれる、 そして楽しめる場づくりを

3.11あの時
P33 Report. 15の続きです

刈田郡

海藤 節生 NPO 法人 水守の郷・七ヶ宿

取材日 2012.10.04

水源地七ヶ宿の役割と魅力を伝え、地域の自然と人を守り育てる事業を行なうことにより、水という関わりの中でつながった地域の持続可能な未来づくりに寄与することを目的に活動している。震災後は北上町相川地区を継続的に支援。復興支援ライブも各地で精力的に行っている。2012年農林水産省主催の「オーライ！ニッポン ライフスタイル賞」を受賞。

石窯ピザが地域をつなぐ

遠方よりたくさんの方が来て片づけてくれたおかげで町はすっかりきれいになった。役所から機械が入り地域の人を雇用しながら瓦礫の撤去をやるようになってやがて何も無くなっていく。漁業者たちの船が新しくなり、わかめの種付けをし、そこにボランティアが来て、収穫の時期はちょうど3.11から1年が経ち、それなりにわかめも収穫できるようになっていた。復興祭があちこちで行なわれていた。漁業者たちだけは何となく明日が見える状況になっていた。

瓦礫の撤去が完了した後、トラクターを入れ、石を拾って畑作りをした。そこに仮設に住む人達が野菜を植え、震災の年の8月には収穫して食べた。瓦礫を拾っているとき会話の中で、「あんた仕事は何やってんの？」と聞かれ「ピザ屋です。」と答えると「ピザなんて食べたごねえな。」と言われた。田舎の人には珍しい食べ物だろう。「今度食わせっから」と、ピザ窯を作ることを約束した。

ピザ窯を作るためには資金が必要だ。いろいろなところで助成金を申し込んだが、営業的なものであるとか緊急性が無いという理由で断られた。確かにそうとられても仕方がない。会話するボランティアであったり、読み聞かせをするボランティアであったり、パソコン指導のボランティアなどはいっぱい来ていた。そうしたことも必要だが、今までそこに無かったものができて、食べたことが無いものを食べようと人が集まることで良いコミュニティが生まれると僕は自分の想いを信じ、これは何とか自分で稼ぐしかないという決断に至った。東京にも仲間ができていたので、東京でチャリティーコンサートを開いてその収益金で作るという計画を立てた。ところが見事に大赤字。ピザ窯を作るという想いを聞いた東京の仲間がリベンジしてチャリティーコンサートを企画すると言ってくれた。ピザ窯は30万の費用が必要だ。それなら「30万売り上げを上げるから」と企画してくれた。その結果20万程であったが収益が出た。石窯だと材料の石代はどうしてもかかる。



ご縁があり宇都宮の石屋さんにつながって、大谷石を半値で譲ってもらった。運送もたまたま別の時に被災地で知り合った栃木の社長さんが、無償で運んでくれた。

2012年3月4日は北上町相川地区の復興祭だった。いろいろな人が集まる。ここが狙い目だと思い、力を貸してもらい石窯の型枠を作り、翌日生コンを打って石窯の基礎を作った。その後すぐ、東京の仲間がボランティア10数名を連れて来てくれた。3日間で大体の形ができあがった。

3月下旬には初めて窯に火が入れられた。何も無いところに何かができて煙があがっている。地域の人たちも興味津々で集まってきた。あっという間に用意した30枚のピザが無くなってしまった。余談だけれど、わかめをトッピングしてみたが磯臭くて食べられなかった。

ハーブプロジェクト

ピザ釜を設置する場所は地元のおじいさんに借りている。そのおじいさんが土を入れ畑を作りたいと言っていたので、畑を作ってあげた。ピザ窯があるので、結局この畑はハーブ園にすることになった。そこからハーブプロジェクトが始まった。東京のライブ費用を工面してくれた仲間が、今度は東京でハーブキットを販売する活動を始めた。種と土を袋に入れて500円で販売する。購入していただいた人に里親になってもらい、ある程度の苗になったら、北上町の畑まで運んで植えて、収穫したものはまた里親の元へ届ける仕組みだ。いろいろなところに声をかけてくれて広まっていった。別の仲間は収穫できたハーブを乾燥させてハーブティーを作ったり、バジリコを作ったりして、いろいろな形でつながっていった。

ちょうどその頃、首都圏の女性リーダーと被災地の女性リーダーが集まる「結結プロジェクト」に参加し、ログハウス作り経験者と知り合った。石窯に家を建てようと、6月ぐらいから石窯をログハウスで囲んでいく作業が始まった。

ハーブプロジェクトは広がりを見せハーブを植える場所がなくなってしまった。ふと自分の地元を振り返れば、ピザ屋を構えている七ヶ宿も過疎地であり活性化しなければいけない。東京と被災地と水源地である七ヶ宿の山がつながるハーブトライアングルプロジェクトを立ち上げた。ダム の管理所に花壇を作りハーブを植えた。ハーブは大豊作となり、9月16日に七ヶ宿で収穫際を行なった。ジェノベーゼとバジル入りソーセージを作りみんなでおいしくいただいた。



撮影：2012.4.3 石窯ピザ

水守の郷音楽祭2012

震災は自分にとっていろいろなことを考える良い機会となった。そして、音楽活動を再開する機会ともなった。付き合いのあるミュージシャンたちも震災復興のためいろいろなところで活動している。初代ハウンドドッグのメンバーで「嵐の金曜日」の作者の八島順一さんは、運転免許がないのでバスに乗って山形経由で石巻の方へ来てくれたという。そんな話を耳にして八島さんに「一緒にコンサートやるか？」と声をかけ、2012年10月27日（土）七ヶ宿ダム自然休養公園野外音楽堂で「水守の郷音楽祭2012」を行なうことになった。

これからの活動

相川の人たちは、石窯ができるとは考えもしなかっただろう。私が行くと何かが始まる。「今度は何やってたんだ？」と言いながら、手が空いていると寄ってきては手伝ってくれる。緊急な状態から脱した現在、現地に来るNPOやボランティアが次のステップに向けた活動を探している。そうした人たちの協力も得て、9月にピザ窯の前にウッドデッキを作った。ここでハーブ園を眺めながらお茶っこしたり、お祭りのステージになったりして元気の出る場になってほしいと思う。

この先、仮設住宅から高台への移転が始まる。さまざまな課題が出てくるだろう。寄り添ってきた皆さんの内面に触れながら、地域の人が気兼ねなく集まれる、そして楽しめる場づくりをこれからもしていきたいと思っている。



撮影：2012.6.15 石窯をログハウスで囲んでいく作業